

〈新刊紹介〉

岩本憲司著『中國古典翻譯の諸問題』（汲古選書 77）

汲古書院 二〇二〇・四刊

四六判 四〇〇頁 四五〇〇円

顧 嘉晨

本書は、日本における春秋學研究の第一人者岩本憲司氏が、前著『春秋學用語集 補編』に引き続き、日本最初の『春秋左傳正義』の全譯書である、野間文史氏の『春秋左傳正義譯注』（明德出版社）第三冊・第四冊の疑問點について、その補訂を試みたものである。

岩本氏は注疏を的確な日本語に翻譯することを極めて重視しており、七四六項にわたって、それぞれの疑問點を丁寧に指摘した。中國古典に對する日本語翻譯の留意點を示す良書である。実際本書を読み解く際には野間氏の『譯注』を手元に置くことが望ましい。

以下、本書の構成に沿って内容を紹介する。

本書は全體を通して簡潔で理論的な文體で貫かれており、論理、文の構造把握、句讀、語の解釋などの問題別に分類しながら、細密に翻譯の疑問點を指摘している。まず、第一章

「論理の問題」では論理の問題が特に際立っている例への検討が行われる。次に、第二章「文の構造把握の問題」では、論理の基礎である文の構造をとらえそこねている例をとり挙げると。續いて、第三章「句讀の問題」では、翻譯の舞臺裏である句讀に注目し、句讀を間違えている例を提示する。第四章「語の解釋の問題」では、文中のたった一つの語の解釋いかんによって、文全體の意味が變ってしまう間違いを示す。そして、第五章「連文の問題」では、本来「連文」であるのに、それと認識できず、別々に譯してしまっている例を記す。さらに、第六章「日本語の問題」は、日本語に翻譯する際に、文語を口語に變換しただけの安直な訓讀（口語訓讀）などから生じた内容的に意味不明な譯文についての具體例である。第七章「正確さの問題」では、不正確な譯の例を指摘する。最後に、第八章「不注意の問題」では、不注意による過失の例も注目

される。本文末の索引に示された野間氏『譯注』の第三冊・第四冊の頁番號などから、著者の讀者に對する行き届いた配慮が随所に窺える。

以上のように、本書は著者の大量の時間と精力が注がれ、一字一字丁寧に注疏を考察するものである。ただし、単なる訂正集のみならず、注疏の譯文を作成する時よく現れる問題點、注意點を示した貴重な一書である。

なお、本書は『春秋左傳正義』の日本語全譯書の問題點が論じられ、翻譯の精密性を高めるための有益な指摘といえる。春秋學に對する理解を大幅に深めるとともに、中國古典の日本語譯の再考を促進できると考える。春秋學や中國古典の日本語譯に關心を有する人、特に若手研究者には、本書を是非手に取っていただきたい。また、岩本氏の一連の春秋學關連著作も合わせて讀まれることをお勧めしたい。